

〔2〕高柳記念奨励賞（2件）

榎 啓一氏（（株）NTTドコモ取締役iモード事業本部長）

松永 真理氏（松永真理事務所代表取締役）

携帯電話「iモード」サービスの開発

1999年2月22日にサービスを開始した『iモード』は、「話す携帯から使うケータイへ」というコンセプトの下、消費者市場向けモバイル・マルチメディア商品として登場したサービスであり、携帯電話とインターネットを融合させたサービスである。サービス開始当時は、インターネットという言葉は日本において一般化しつつあったが、市場としてはそれ程大きなものではなかった。その理由の一つとして、「インターネット利用にはPC（パーソナル・コンピュータ）を操作することが必要、でもPCは難しい、怖い」という消費者心理が障害になっていたと考えられる。その結果、一般の消費者がそれほど多くはPCインターネットを利用しなかったからである。

そうした状況の下、日本において当時4,000万人にまで普及していた携帯電話で、インターネットにアクセスし情報の授受ができないだろうか、その方がPCよりも人に身近で、手軽なサービスが実現できるのではないか、市場は大きいのではないだろうかという発想から誕生したのが『iモード』である。

榎氏は「iモード」の構想段階から開発・サービス導入まで総責任者として陣頭指揮を振るい「iモード」サービスの開発に大きな貢献をされた。

松永氏は「iモード」ビジネスのプランニング・コンテンツ編集責任者として従事ビジネスプランの構築・iモードコンテンツの編集に多大の貢献をされた。

「iモード」は日本の得意分野の技術と消費者の感性の高さに負うところが大きいであるが、サービス開始以来2年強で2600万人を超えるユーザーを獲得。モバイルマルチメディアの持つ無限の可能性を証明し、わが国のITビジネスに明確なひとつの方向性を示すと共に、今後世界の市場への大きく広がって行くものと期待される。